情報処理･通信分野および都市工学分野の研究室における研修を通じた

タイ･タマサート大学シリントーン国際工学部(SIIT)との交流

東京都市大学

2016 年 11 月 13 日から 20 日の間、タイ･タマサート大学シリントーン国際工学部(SIIT)の学生 10 名と引率の教員 1 名を招聘し、さくらサイエンスプランを実施した。

すでに SIIT との間では、数回のさくらサイエンスプランを実施して SIIT の学生を招聘しており、いずれも参加学生のこのプログラムに対する評価が高かったことから、SIIT 側で今回のプログラムへの参加募集をかけたところ、42 名の応募があったとのことである。そのなかから、特に優秀な学生を選抜し、都市工学(CE)分野 3 名、情報処理･通信(ICT)分野 7 名の学生が来日した。学生の所属学科は、Civil Engineering から 3 名、Computer Engineering から 3 名、Electronics and Communication Engineering から 2 名、Information Technology から 2 名であった。

このプログラムでは CE 分野、ICT 分野の最先端技術に興味を持つ学生に対し、研究室に分かれて研究内容等の技術的活動を通じてその分野についての知識と経験を得るとともに、指導教員や研究室所属の日本人学生との交流を深めることを目的としている。各参加者から事前に通知されていた興味のある分野をもとに、6 つの受け入れ研究室を決定し、その研究室での活動を実施した。受け入れ研究室の研究分野は、コンクリート工学、災害・地震工学(以上 CE 分野)、言語･音声情報処理、画像･仮想現実、コンピュータアーキテクチャ･アルゴリズム、制御システム(以上 ICT 分野)であった。

プログラムは初日にまず、大学の概要について、プログラム内容についてのオリエンテーション(図 1)を行い、次にキャンパスツアーを行って主要な施設を見学した。その後各研究室の指導教員およびサポートする学生が自己紹介を行ったのち、SIIT の学生は各研究室に分かれて活動を開始した。

図 1　オリエンテーションの様子

図 2　コンクリートの強度を測定する参加者

研究室での活動期間は 4 日半であり、この間に各研究室が用意したプログラムに沿って各専門分野に関する PBL が行われた(図 2)。研究室での活動を通じ、参加した学生と指導の教員やサポート学生との間には良好な関係が構築され、技術的なディスカッションのみならず、文化、食、あるいは学生生活など、様々な情報交換が行われた。

最終日の午前には、お台場にある、日本科学未来館を見学し、学外での技術研修を行った。午後からは大学に戻り、まずポスターセッションによる成果発表会を実施した(図 3，4)。参加した学生はポスターセッションが初めての学生もいたようであるが、ポスターについてもプレゼンテ

ーションについても非常に良い出来であり、SIIT のレベルの高さを感じさせた。また、ポスターセッションとしたことにより、参加者の間で充分な情報交換とディスカッションを行うことができた。発表会終了後には修了式が行われ、三木千壽学長より参加者に修了証が手渡され(図５)、すべてのプログラムは終了した(図６)。

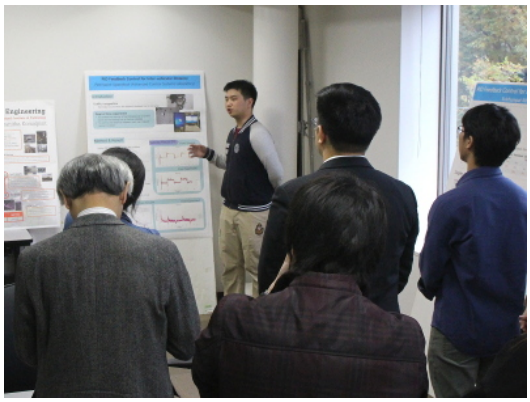

図３　ショートプレゼンの様子

図４　ポスターセッションの様子

図５　修了証授与式の様子

図６　集合写真